

神戸港見学

- 1.【日 時】 令和5年11月7日(火)
- 2.【見学者】 港湾技術科1年、港湾流通科1年、港湾ロジスティクス科1年

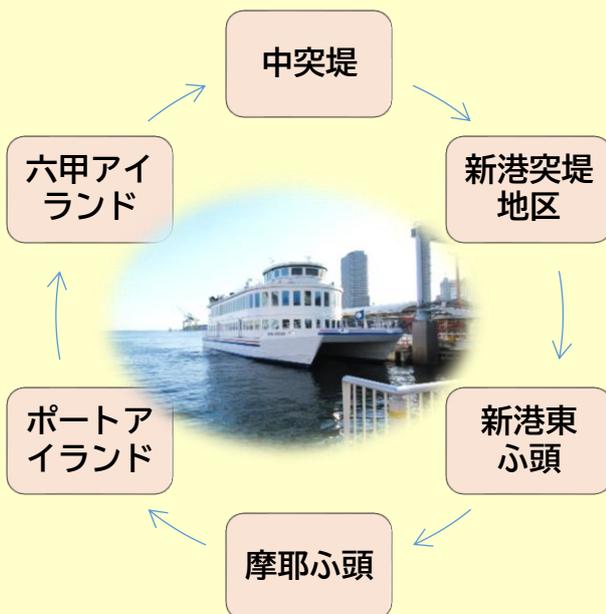
3【見学目的】

「職業社会概論」の授業において、乗船により神戸港を見学し、国際コンテナ戦略港湾としての機能を果たしている“港湾”について理解します。

神戸観光局様のご協力で乗船時のガイドにより、神戸港発展の歴史や各埠頭の機能と役割、神戸港の今と将来構想など、幅広く解説いただきました。学生の港に対する知識や理解がより一層深まったことと思います。



【見学コース】



◆【全体の感想】

将来自分がどこかの港で働いていることを考えると、とても楽しみである。今回ガントリークレーンが積み下ろしをしているところが一番印象に残った。ガントリークレーンで、コンテナが積み込まれて船を見て、少し港湾の仕事について理解できた気がした。自分が将来、港湾の仕事に就くのであれば、ガントリークレーンに是非乗りたいと思っているので、具体的目標が出来た気がした。

今回、神戸港を普段見ることのない海側から見ることができ、貴重な経験ができた。特にガントリークレーンが実際に荷役しているところを近くで真正面から見るととても迫力があり、“自分も将来こういうところで働くのだ”という現実味が一気にわき、早く就職してガントリークレーンに乗りたいと思った。見学をして大きな刺激を受け、貴重な体験ができた。



船に乗って川崎重工や神戸学院大学の方に行ったことはありましたけれど、ポートアイランドの東側は初めてで、あんなに近くでガントリークレーンが何台も並んで、実際に荷役しているのを見ることができ、本当に良かったと思います。また在来船が目の前を通り、とても大きいなと感じました。六甲アイランドでは稼働しているところが見えなくて残念でしたが、ガントリークレーンの数の多さに驚きました。“コンテナがあり”、“自動車のオークション施設があり”、“石炭、鉄鋼など来船を利用する貨物がある”など、港が発展しているなと思いました。私もこの港湾を支える人になれたらいいなと思いました。



神戸港のイメージとして、具体的にどういったことをしているのかわからなかったのですが、今回の経験はかなり貴重なものになりました。神戸港はカーボンニュートラルを0にする取り組みをしていることや、神戸港周辺で陸電設備だったり新港第2突堤では、多目的施設の神戸アリーナを建設中だったりして開発が着々と進んでいることがわかりました。神戸港には資源が集まることもあり、火力発電所であることも知る事ができました。1時間見学するだけでかなり情報を得ることができたので、今後も情報を自分で収集できるようにしたいと思います。

自分の思っていたイメージよりも規模が大きく貴重な体験だった。授業で聞いていたことのある企業や初めて聞く企業もあり、数多くの企業が神戸港の港湾事業に参加していることを改めて知った。見学前は就職先が見つからない等の不安要素も少しばかり持っていたが、活気づいた神戸港の風景を見て就職活動への意欲と期待を持つことができたと思う。今の自分では、まだ知らない情報もあると思うので、自分でいろいろと調べ、これからの活動に臨んでいきたい。



このような機会がなければ、神戸港を船から見学することはなかったと思うので、ありがたい経験をさせて頂いたなと思った。改めて様々な業種が港湾の仕事にはあると考えさせられた。視野を広げて、どの職種に自分がつきたいかを考えたい。



様々な会社をたくさん見ることができた。フォークリフトで荷物を移動させている会社があったり、ガントリークレーンが荷役作業をしているのを見ることができて良かった。将来ガントリークレーンに乗りたいので、まずは資格をとることが1番大事だと思った。資格があれば、選べる会社も増えると思うので11月28日のクレーンの学科を頑張ろうと思う。

自分が思っていたよりも大きな船で、思ったより景色が変化するスピードが早く、もっとパンフレットなどを事前に読んでおけば良かったと感じた。このポートアイランドに通学する中で“ONE”のトラックを見ることはよくあったが、コンテナ船を見るのは初めてだったので、その大きさに驚いた。大型船舶の増加につれて、現在は楯形の新港突堤西地区もまた形状が変化するのでと思うと楽しみである。これからも港の発展に期待したい。

実際に海から神戸港を見てみると、穏やかで港の入り口も広く、エリア毎に取り扱うコンテナ（荷物）の種類が分類され、日本の海運にとって重要な港であることが改めて確認できた。
六甲アイランドとポートアイランドの間には高速道路の建設に向けた工事も始まっていて、これから神戸港がどう変化していくのか非常に楽しみだ。



今回の神戸港見学は、今までの自分の認識を改める良いきっかけになったと思う。「神戸港」と聞くとポートアイランドのCTが真っ先に思い浮かんでいたが、それだけでなく、六甲アイランドや兵庫埠頭の工業エリアやメリケンパークの商業エリアもこの広大な神戸港の一部だと思うと、改めて港という施設のスケールの大きさを感じた。また、歴史も古く少しさびれていると思っていたが、再開発や2050年までのカーボンニュートラルを目指す目標など、これからの発展を願って新しいコトにチャレンジしていく姿も見ることができたのでとても良かった。

×リケンパークを少し出ると大手造船会社があり、その会社の大きさに驚いた。北埠頭辺りに日本車（新車）が並んでいて普段では見ることのできない場所にあった。また車を運搬している船も見ることができた。車が外国へ輸出されるのを見る良い経験だった。神戸大橋の下を通った時、私が普段思っていたよりも神戸大橋が低く感じ、ポートアイランドがとても広く感じた。

今回の見学で、自分の見えていない場所でも、生活していくのに必要な仕事が多く存在しているのを改めて知る事ができました。そして有名な企業などが神戸港で作業を行っているのを知って驚きました。また、船にも車と同じように通り道があることを初めて知りました。コンテナや車の多さを見て自分の生活の裏にこれだけ多くの仕事があり、またそこで就職することができると思うと自信がつき、教科書やインターネットでは学べない多くのことを学ぶことができたので、見学に参加して良かったと思いました。



個人的なイメージで神戸港は、物流はあまり発達していないイメージがあったが、今回の見学で耳にしたことのある企業やコンテナの数の多さ、またクルーズ船や大型船が停泊航行していたのを見て、神戸は日本の貿易や物流に深く関わっているんだなと実感した。普段見ることができない大量の車が並んでいたり、大学やガントリークレーンなど海からの新鮮な景色を見ることができた。毎日の通学時に、“このような会社が活動している”とか、“こんな作業をしているんだ”と、“新たな視点で通学してみるのもあり”かもしれないと思った。



船に乗って海に出ることは、人生で2回目となり、今回もとても楽しみにしていました。普段は中々見ることができない潜水艦やガントリークレーンが動いている様子などを見ることができとても貴重な体験をしたと思いました。大量のコンテナが積まれているコンテナ船を見て迫力があり思わず「すごっ！」と口にしてしまう程でした。神戸港を見ただけで驚いていたのに上海やシンガポールの港を見たらどうなってしまうのだろうとわくわくしました。

小学生の時以来久々に船に乗ったが、意外に酔わなかった。普段何気なく通学しているポートアイランドだけれど、詳しく見ると新たな発見があるんだと気づかされた。乗る前は、正直神戸は他と比べて大したことはないという情報を信じていたが、神戸港めぐりを体験してみて神戸もすごく頑張っているなと思い、将来働く場所として“あり”だなと思った。メリケンパークも近年再開発が進んでおり、商業施設としても機能しており、正に街と共存する港になってきていると感じた。今日の体験を通じて改めて港湾について考え直す良い機会となった。

